

美祢市行政改革推進委員会 会議録(概要)

日 時 令和4年3月10日(木)14時30分～15時30分

場 所 本庁3階 委員会室

出席委員 米岡秀眞委員、井上静夫委員、小池利治委員、宮崎義明委員、村上奈保実委員、山崎晶子委員、河村裕之委員、高木 学委員、品川智宏委員、竹下駿委員、矢田部沙季委員

事務局 デジタル推進部 デジタル推進課長 竹内、デジタル推進課情報政策班 藤本 班長

1 開会

2 市長挨拶

委員改選後の初めての会議となり、市長が開会の挨拶を行った。その後、本委員会は市長の諮問機関のため議事には加わず市長は退席。

3 委員紹介

4 会長副会長選出

委員互選により、会長に米岡委員、副会長に品川委員を選任。

5 議事

(1) 第三次美祢市行政改革大綱について

- ・資料に基づき事務局から説明
- ・委員からの質疑(要旨)・意見 なし

(2) 美祢市 DX 推進計画及び公共施設等総合管理計画について

- ・資料に基づき事務局から説明
- ・委員からの質疑及び意見(要旨)

| | |
|------------|--|
| 委員 | デジタルの推進については、ITリテラシー、理解する能力ってというのが非常に重要になってくると思う。計画推進体制のところでも市民、事業所各団体への施策の展開となっているが、例えば知見の提供とか、研修、ソリューションの提案とかどうやってDXを理解させるかっていう施策が必要なのではと考える。その点についてどう考えているのか。 |
| 事務局 | 施策の展開と標記しているが、これは、市が主体的に施策を行うものもあれば、地元商店からのキャッシュレス推進などDX推進にかかる相談等の対応や地域が主体となって、それを補助する事業も盛り込んでいる。 |
| 委員 | 美祢市のデジタルデバインド対策、特に高齢者に対しての事業展開について教えていただきたい。 |
| 事務局 | 主に行政のDXの推進で、マイナンバーカードの普及とスマホの普及、活用が誰でもできること、これが一番大きな問題で取り組まなきゃいけないと認識しております。このDX推進計画の中でスマホ教室や地域における相談学習支援体制の検討・充実を掲げているところである。 |
| 委員 <意見> | デジタルデバインドのことに関連して、よく言われるのは誰1人取り残さないっていう、キャッチフレーズで言われるが、今までの感覚でいうと、システムがあって、それに何とか、慣れてくださいっていう形でのデジタルデバインド対策っていうのがあったので、逆にシステムのほうをもっと簡単にして、簡単な操作でできるようなシステムを作るほうが早のではないかなと思う。 |

| | |
|------------|--|
| | <p>また、美祢市は結構公民館活動が活発だと聞いている。そういう公民館活動とか地域活動の中に活用できるようなシステムに落としてもらわないと、スマホ教室でそこでしか使わないようなシステムを持ってきたところで、それは多分意味がないと思う。皆さんが日常的な生活を送る中で必要なものを自然に集まる場所で、お互いに教え合ったりとか、日常的にデジタルというものに触れていただけるような工夫っていうのを是非していただきたい。</p> <p>今回の行政改革とか、デジタル化っていうものは、刻々と変わっていくその市民サービスの向上のためにあると記されておりますが、行政サービスはどちらかというと増える方向にある。それを、楽にしようということで、恐らくその行政改革やデジタル化という考えになるのだと思っている。</p> <p>どうしても人じゃないと出来ない部分、そこに人材を集中するっていう考え方で、行政改革っていうのを進めないといけないと考える。</p> <p>なお、行政機関の宿命として完全にその必要でないところを切捨てられないっていうのは、それはちょっと民間の方にも御理解をいただきたいと思います。</p> |
| 委員 <意見> | <p>デジタル化の推進にあたって1番難しいのは市民の意識をどういうふうにするかということと考える。ITリテラシー、これをどう上げていくか。</p> <p>市からの説明会を実施しても、出席者が少ない。必要を感じない人、自分事として考えない人の対応が必要かと。</p> <p>スマートフォンを持ってきていきなり使いなさいよって言われたって、誰も使えないと思う。市民全体の意識レベルを鑑み、本当に必要な部分だけを教えるという形をとることも大事であると感じる。</p> |
| 委員 | <p>基本方針に書かれている通り、庁舎、支所の建て替えを前提に行政のDXが先行して進んでると思っている。建屋が変わると当然ペーパーレスも進んでくるでしょうし、RPAだとかっていうのは、当然新庁舎には導入される計画が進むものだと考えている。</p> <p>民生部門のDXのところ、なかなか進まないことが、課題だと思う。他自治体では、自治会単位では、例えば防災だとか、いろんな課題を、DXや、ITを使った、取組を企画を上げてもらい、毎年、それに対して、いいものについては補助金を出している事例がある。大きな額ではないが、自治会単位の方たちが、高齢者の方とかに、例えば、簡単な話はLINEの使い方をやるだとか、LINEグループを組んで、何か災害時にすぐ分かるようにするようだとか、そういう取組に対する補助金制度である。</p> <p>いい取組を行っている自治会に対しては、補助金を出すことによって、行政の負担を民に移していくという、そういう活動を行いながらある程度DXというものと民間の活用、それから行革の効率化っていうのを行ってほしいと思う。</p> |
| 事務局 | <p>この行革の中にも、項目として地域との協働のところを掲げている。地域との協働が進むことによって、様々な問題が解決できると考えている。</p> <p>本市でも特定の地区において、公共交通の運営であるとか、地区の方に公民館の運営自体を管理してもらおうとかですね、そういった取組まで広げられるようにしたいと考えている。補助金とかそういう形で、市のほうも、バックアップして成功事例を作って増やしていきたいという方針で、今、地域活動の所管課のほうで取組を進めている。</p> |
| 委員 <意見> | <p>1点だけ、行政改革大綱のところ、アの実施計画のところ、いろんな、指標を練られてますが、2ページの下のとこで年次有給休暇の平均取得日数の目標値の実績があります。目標値が10日とありますが、半分しか消化出来てないという状況の目標は質の高い人材いい行政運営を進めていかなければ、もたない時代にも入ってくると思いますので、人事側がこういった</p> |

| | |
|--|--|
| | 形で、10日と設定してしまうと、なかなか 10 日以上は取りづらいついていうのはあると思う。 |
|--|--|

| | |
|--|--|
| | 法定では20日というのがある。長く、より質の高い、仕事をしていただくという上で大事なことだと思いますので、目標の設定とかですね、御検討されてみるのもいいのではないかと考えます。 |
|--|--|

3 その他

・特になし